

平成 26 年 4 月 18 日

浜田市議会議長 原田義則 様

議員名 足立 豪



調査研究活動報告書

下記の通り調査研究のため視察を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1 期 間 : 平成 26 年 2 月 5 日 (水) ~ 2 月 7 日 (金)
- 2 視察内容 : 乗馬施設とまちづくりの関わり合いについて
大分県九重町 エルランチョグランデ
地域ブランド戦略について
熊本県阿蘇市
道の駅「むなかた」について
福岡県宗像市

3 調査経費 : 32,271円

経費内訳	調査研究費	31,571円
	資料購入費	700円 (別紙のとおり)

4 調査研究活動の概要 : 別紙報告のとおり



乗馬施設とまちづくりの関わり合いについて

大分県九重町 エルランチョグランデ

〈1〉 視察に至った経緯

金城町の乗馬施設、金城ウエスタンライディングパークが、新たな指定管理者の元、リニューアルされた。

この施設が浜田市の新たな集客施設として、生まれ変わり、地域が活性化する事を願い、先進事例のウエスタン乗馬牧場エルランチョグランデの取組みを視察した。

〈2〉 調査項目

1 施設見学

[大分県玖珠郡九重町田野 1726-320 ウエスタン乗馬牧場エルランチョグランデ]

2 乗馬施設とまちづくりの関わり合いについて

視察当日は、大雪で周辺施設も観光客が居ない状況であった。そのような中、瀬戸代表を含め数人のスタッフで施設を見せてもらった。

簡素では有るが、宿泊施設を併設した学習施設として整備され、建物の配置等創意工夫が見られた。

オープン当初、周辺の食事をする所は4軒しか無く、レストランを併設し顧客ニーズに対応していたが、観光客も増え食事処が増えた出したので、乗馬施設本来の業務に専念、周辺のホテルへ顧客を紹介し、ウィンウィンの関係作りで地域と共に発展をし、冬場の閑散期は最低限のランニングコストのみで、施設やホテルもサービスを提供する事で、地域と共同体の意識が醸成された。

牧場体験で修学旅行等も受け入れ、ホースセラピーを取入れて、障がいの有る方の様々なニーズにも対応している。

〈3〉 所感（まとめ）

乗馬施設を活用しながらの地域活性化は、これからの高齢社会に必要な不可欠であるとともに、大きな期待と希望を感じた。

これからの地域は、人だけでなく生き物や自然を活用しながら、また、ユニバーサル社会の構築目指す中で、乗馬施設があるという利点を生かしながら地域活性化を目指すべきものであると認識することができた。

地域ブランド戦略について

熊本県阿蘇市

<1> 視察に至った経緯

地域ブランド戦略「然」の取り組みについて

① 取り組み理由

地域ブランド戦略として、全国的にも有名になりつつある熊本県阿蘇市で取り組まれている「然」ブランド戦略を学ぶことで、浜田市においても「どんちっち」ブランドやこれから取り組もうとしている「山陰浜田港」などにおいて、有効な戦略の確立を目指して、この視察を行いました。

② 熊本県阿蘇市の概要

【位置と地勢】

阿蘇市は、熊本県の北東に位置し、北に南小国町・産山村・大分県日田市、南に阿蘇山を挟んで南阿蘇村・高森町、西に菊池市・大津町、東に大分県竹田市が隣接しています。阿蘇市の規模は、東西約 30km、南北約 17km、面積は約 376 平方 km です。

地形は、阿蘇五岳を中心とする世界最大級のカルデラや広大な草原を有し、比較的平坦地の多い阿蘇谷と、起伏に富み傾斜地の多い阿蘇外輪地域で形成されています。また、この地域は阿蘇くじゅう国立公園に指定されており、ハナシノブやスズランなど阿蘇特有の希少な植物が自生するなど、自然資源が大変豊富です。

【観光】

熊本県観光統計による県内の地域別観光客数の推移を見ると、阿蘇地域は他地域に比べ観光客数が群を抜いて多く、平成 24 年には 1,600 万人を超えています。阿蘇地域の中央に位置する阿蘇市では、県内最大の観光地であることを背景に、阿蘇の豊かな自然や特色ある施設を活用した観光振興を進められています。

【将来像】

阿蘇市は、世界最大級のカルデラを有する雄大な阿蘇の自然景観、伸びやかに広がる田園風景、阿蘇神社などの歴史遺産や暮らしに根付いた文化・伝承等、数々の優れた資源に恵まれた地域です。また、阿蘇地域の中心にあって、九州の南北、東西交流の拠点に位置し、熊本県内でも最大の観光入り込みを誇っています。

このようなことから、阿蘇市の将来像を、「緑いきづく火の神の里～豊かな自然と笑顔あふれる国際環境観光都市を目指して～」と設定されました。

将来像の実現にあっては、地域の特性を活かしながら、均衡のとれた新しいまちづくりを進めることを施策展開の基本とされています。

「阿蘇の自然と共生する環境都市づくり」

「元気あふれる産業の育成」

「魅力あふれる大阿蘇の観光地づくり」

「笑顔でつなぐ情報通信のまちづくり」

「安心して暮らせる快適なまちづくり」

「個性あふれる生涯学習都市づくり」

「住民参加による自立したまちづくりの推進」

の7つを新しいまちづくりの基本施策とし、展開においては、年齢や性別、能力等にかかわらず、誰もが安心して暮らせる環境づくりを目指す「ユニバーサルデザイン」の考えを導入されています。

【行政】

2005年2月11日 → 阿蘇郡の阿蘇町、一の宮町、波野村が合併し発足されました。

市長：佐藤義興（2005年3月6日就任、3期目）

市議会議員 22人（任期満了日：2015年2月10日）

【産業】

市内総生産 1,020億円（2004年度）

〈3〉所感

クリエイティブディレクター 曾谷哲朗氏は、鳥取県の出身であり、時々浜田市を訪れる（正確には通過する）ことがあるが、浜田というところは港でもなく魚でもなく神楽でもないよね、一体なんだろう・・・と話された言葉がとても興味深く心に残りました。

浜田以外に住んでいる方々、例えば広島の方と浜田に住んでいる私たちは同じ認識で、浜田は港の町、魚のおいしい町、神楽の盛んな町・・・と思い込んでいましたが、必ずしもそうではないことをすぐに理解をすることは困難でした。

しかし、そのことを一定程度理解できたときに行う政策が「浜田」という魅力を向上させ、付加価値を高めるのではないかと考えました。

浜田にある最も大きな魅力の「浜田人」を最大限活用させることで、地域としてのブランドを向上させ、そして個別のブランドを活かすことができるような知恵を模索したいと実感しました。

また、ターゲットを商品ではなく「人物」を中心としたブランド戦略は大変新鮮であり、今後のブランド戦略の大きな参考となるであろうと推測します。

道の駅「むなかた」について

福岡県宗像市

〈1〉視察に至った経緯

(株)まちづくり宗像、道の駅むなかた（現地視察）

①施設見学 ②開設から現在までの経緯と取組

『道の駅むなかた』は平成15年4月に旧宗像市と旧玄海町が対等合併し新市まちづくり計画の中から、生まれました。

宗像市の商工会、観光協会、農業協同組合、二つの漁業協同組合（宗像、鐘崎）で平成19年10月(株)まちづくり宗像を設立、平成20年に福岡県内10番目の道の駅としてオープンしました。

オープン当初から、予想を上回る来客数と売上で、毎年右肩上がりとなっています。

浜田市において、同様の施設、道の駅夕日パーク浜田と、しまねお魚センターがありますが、近年は客数と売上の減少が続き、厳しい経営状況であります。

道の駅むなかたの経営のノウハウと商品構成等を視察し、浜田と地理的に似通った海山の産物が豊富な、宗像市の道の駅むなかたから、学ぶべきものが有ると考え、この視察を行いました。

〈2〉調査項目

福岡県宗像市 道の駅むなかた（現地視察）

① 施設見学

② (株)まちづくり宗像の取組

現地説明者 (株)まちづくり宗像 常務取締役

駅長 藤岡 末英 氏

〒811-3502 福岡県宗像市江口 1172 番地

Tel0940-62-2715 fax0940-62-3874

事業取り組みの状況

- 基本的に商品は、市内の生産者又は市内で加工された物に限る。
- 生産者と直接契約、会社としては仕入れ無し、委託料12%〈最大16%〉が収入源。
- 生産者が直接持込んだ、釣り物の魚と朝採れの野菜、その加工品の販売。
- 商品はその日で完売(POSで売上状況を把握し生産者にメールで通知)、売れ残りは生産者がその日に持帰る。
- 支払いは月末締め翌月10日払い
- 毎月各種の研修会を生産者向けに開催、品質の向上と販促に研鑽している

施設の運営状況

- 営業時間：10月～5月（9時～17時）6月～9月（8時半～17時）
- 休館日：毎月第4月曜日

- 売上：平成 20 年 12 億 8 千万円、平成 24 年 16 億 4 千万円
- 来場者数：平成 20 年 139 万人、平成 24 年 163 万人
- 客数：平成 20 年 63 万人、平成 24 年 75 万人
- 客単価：平均 2300 円（他所より 1000 円高い）
- 購買層：50 代以上が半分を占める
- 地域性：市街 88%（福岡 23%北九州 35%筑豊 20%その他 22%）市内 12%
- 部門別売上：水産物 37.2%・農産物 32.4%・加工品 28.1%・他工芸品
- 宗像市に指定管理料として 1100 万円/年、収益の 30%を寄付(平成 24 年度 1000 万円)株主に 10 万円/年の商品券
- 現在利益剰余金は 2 億円積立

〈3〉所感（まとめ）

まず、目玉となる商品の魚の鮮度が良い。
鮮度が良いから、消費者は遠くから買いに来る。
買いに来るから新しい魚を並べる。

こうした良いサイクルを構築できることは理想的であるが、それを実現させるには相応の苦労と一定のルール作りが必要不可欠であると考えます。

それを実践されている、道の駅むなかたは、ただ感心するだけでなく、浜田市にある道の駅でもぜひ活用すべきであり、活用しなければならないと感じました。

道の駅は、統計的にリピーターも多いとの話であるが、商いを繁盛させるにはリピーターの確保に努めることが重要であると認識している。

このような視察経験を浜田市の道の駅でも導入できるよう取り組みを検討してみたい。